

「愛が真の知識と識別力により豊かになり」

ピリピ1：6-11

堀田修一 21・9・19

I 素晴らしい神の先行的恵み

→「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださると、私は確信しています」：6。パウロが福音を伝え、ピリピの人々が救われても、彼らを霊的に新生させたのは、パウロではなく神ご自身。ピリピ人の内に、そして私達の内にも良い働き（救いの業）を始められた神ご自身は、その救いの業を途中で投げ出される事や欠点の多い私達を見捨てられる事は決してなく、キリスト・イエスの日（再臨の日）が来るまでに救いを完成される。救いの三つの面→①義認：私達の過去、現在、未来の罪を赦し、義＝無罪・正しいとされる。神と正しい関係になる。主を信じる者に主の罪のない義の衣が着せられ、神が主の義の衣を見て私達を赦し正しい者と認めて下さる。②聖化：主の姿、品性に聖め続けて下さる。「主の栄光（御性質）を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」Ⅱコリント3：18。③栄化：主の再臨により罪のない主と同じ姿に変えて下さる。3：21。この救いを完成させて下さる。救いは神が始めて下さり、後は私達の手で頑張る完成させなければならないのではない。それは不可能。神の恵みで救われ、神の恵みで聖められ続け、神の恵みで主にお会いし主の姿に変えられる。

II 神の恵みへの応答。

1. 神と神の良い働きを堅く信じる、信じる事を選び取る→「私は確信しています」：6。すべての支配者の神を信頼するほうを選び取り平安を得る。自分の力を誇るのではなく、神に拠り頼み続ける。
2. 主のしもべが投獄されている時も、福音を弁明し立証している時も、主のしもべと共に恵みにあずかる→：7。自分もできる分福音を伝える。福音を伝える主のしもべの為に祈り支援をする。その事を通して共に主の恵みに、福音を広める業にあずかる。
3. 主の愛をいただいて愛し合う。：8。主は、パウロを、私達を慕い愛しておられる。その主の愛を受け続ける時、私達は人々を愛する者に変えられる。
4. 祈る。「あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり」：9。真の知識→神と御子を深く知り続ける知識（エペソ1：17、4：13）。神の御心、真理、御言葉を知り続ける真の知識、善悪を見分ける知識を与えて下さる神、私達を心から愛しておられる神の愛を深く知る知識。自分の愛、人々の愛が無知な間違った愛ではなく、真の知識とあらゆる識別力（原語：知覚、感覚、理解）によって、いよいよ豊かになるように祈り、次のような愛にならないように祈りたい。
真の知識と識別力によらない愛→

- ① 盲目的な愛。判断、理性のない状態。神に祈り判断を求めない愛。
- ② 不正を正さない愛（真の愛は「不正を喜ばずに真理を喜びます」Ⅰコリント13：6）。総理の資質。
- ③ 真に相手の益にならないものまで与え、かえって害を与える間違った愛。相手に嫌われることを恐れて、健全な「ノー」が言えず支配されてしまう。それはお互いの為にならない。
- ④ 自分の責任と相手の責任の境界線を自覚せず、先々に相手の分までやってしまう。相手が自分の責任を負うことや自分の蒔いたものの結果を自分で刈り取る事で学び成長する機会を奪ってしまう。私達を愛しておられる神は、私達に蒔いたものを刈り取らせ、学ばせ、教えられる。「神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈取りもすることになります」（ガラ6：7）。真の愛は縛るのではなく、相手の成長、神がその人に用意しておられる将来をその人が自分で発見し、その目標に向かって進むのを手伝う。※子への愛も。大切な事は、分を越えて人からの評価を上げようとする事ではなく、神からの自分の分を喜んで果たす事であり、神ご自身の変わらない愛を価値観の土台とする事→「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザ43：4）。

Ⅲ 神が与えて下さる真の愛の実践

1. 相手の真の必要と真に益となることを祈りつつ識別して与える愛。「あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」：10。人生で大切な事は、真に大切な事を祈りつつ見分ける事。
2. 自分自身を識別できるように祈る。謝りにくく、攻撃的、支配的になりやすいタイプか？それとも、必要以上に謝り、言いなりになり、すぐに身を引こうとするタイプか？前者のタイプの人、寛容な愛を祈り求める。相手の正直な気持ちや「ノー」にも耳を傾ける。後者のタイプの人、聖なる勇気をもって向き合う愛（自分の気持ちや「はい」か「いいえ」を愛をもって相手に真実に伝える勇気ある愛）を祈り求める。
3. 相手の求めるまま（間違った求めもある）に従い、相手に支配、コントロールされてはいけない。自分も相手を支配（「ノー」を言わせない圧力をかける）してはいけない。「はい」と「いいえ」を健全に言える関係を祈り求める。一步、一步。その為には、「真の支配者」は、相手でもなく自分でもなく（人間ではなく）、「主なる神ご自身のみ」という聖なる自覚とその神がいつも共にいて下さるという自覚が大切→「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください」（使徒4：19）。この御言葉と「上に立つ権威に従うべきです」（ローマ13：1）の判断を祈り求める。神を会堂で礼拝する人、事情があり自宅で礼拝する人、それぞれをさばかず認め合いたい。
4. 人に必要な愛を与えるだけではなく、自分に必要がある時、神に祈りつつ信頼できる人に相談し、必要な支援を受ける。「互いに愛し合いなさい」（ヨハ13：34）。相手の為に祈ると同時に、自分の為に祈ってもらう。与える事と受ける事のバランスが大切。介護も、牧会も、医療従事者も、教師も。一人で使命を抱え込み過ぎると心が病み、倒れてしまう。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう」（創世記2：18）。

5. 人間的な愛は、人を真に生かすのではなく、人を利用する関係、支配する関係、支配される関係、縛り縛られる関係となる。神が下さる真の愛は、人を利用したり、支配したり、支配されたりせず、相手が主と御言葉に結びつき、主にあって成長することを援助して行く。「私たちは、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために働く協力者です」Ⅱコリント1：24。真の愛は人を支配せず、人に支配されず、主を恐れ尊んで（主に喜ばれる事を見分けながら。エペソ5：10）、人に仕える。人を支配するのではなく、協力者となれるように祈りたい。

6. ①自分の分（祈りつつ主を伝える）②人の分（主を信じるか拒むかの決断）。③互いに協力し合う分（弱さを打ち明け、祈り合い支え合う）④神の分を祈りつつ識別する。日々の祈り：「私たちの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、真にすぐれたもの（神のみどころにかなうもの、真に相手の為になるもの）を見分ける事ができるようになりますように」。人を変える事は私達の分ではない。私達の分＝御言葉と祈りにより自分を変えられ、愛の源である神との関係を深める。神から識別力のある愛をいただき、神の時に委ね、とりなしの祈りをする。

祈り：「こうしてあなたがたが、キリストの日に備えて、純真で非難されるところのない者となり、イエス・キリストによって与えられる義（神との正しい関係、真の正しさ）の実に満たされて、神の栄光と誉れが現わされますように」：10, 11